



か第0929042号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

かつらぎ町長 山本恵章



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平素は、本町の道路行政に格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別添
のとおり提出しましたので、よろしくお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

和歌山県かつらぎ町

①道路行政全般について改善すべき点・提案など

・府県間トンネルである、「国道480号鍋谷峠道路」は、本町並びに関係市町の長年の悲願であり、この道路の完成により本町の重要課題である、若者定住や産業の発展を図る上で重要な道路であり早期完成を特に要望します。

・道路特定財源が一般財源化されることとなりましたが、和歌山県或は本町を取巻く道路整備は山間部であるがゆえに都市部と比較すると大幅に遅れている状況にある。中期計画には経済効果一辺倒の計画でなく、遅れた地方部の道路網を着実に整備する視点に立った計画として欲しい。

・財政が疲弊している地方の市町村の道路整備に関しては、使いやすい財源を確保して欲しい。又、補助事業においては、全国一律の補助率でなく、其々の市町村の財政状況を勘案した補助率の嵩上げ等により、市町村が課題となっている道路整備が遅滞することなく整備が進む施策をして欲しい。

・地方道路整備臨時交付金制度は、他の市町村同様に本町にとっても唯一の国庫補助の道路整備財源であり、一般財源で道路財源が確保できる都市部とでは比較にならない重要な財源である。まだ税制改正の方向が定まっていないが、今後も同様な補助制度の確保を要望します。

・本町の道路整備は生活道路を主体とした道路整備を行っているが、こうした地方の実情にあった道路整備にも補助制度の創設を要望します。まちづくり交付金制度は、使いやすい制度であるが財政状況が厳しい市町村にとっては取り組みにくい。特に補助率が低い。そのアップ或は、前述の市町村の財政状況を勘案した率の嵩上げを特に要望します。

・老人人口の割合が今後増加する傾向にある本町にとって、道路のバリアフリー化は避けれない施策である。既存道路の再整備に係る補助制度はあるが、制度上採択基準のハードルが高い。採択基準を地方に標準を合わせた制度を新に創設して欲しい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②
和歌山県かつらぎ町

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

本町の位置は、和歌山県の紀北地方の東部に位置しており大阪圏域から直線距離は近くに位置している。

道路網に関しては、東西の交通網は国道24号・京奈和自動車道など多くの道路が整備され又は整備中の状況である。

然し大阪圏域への道路網は、近隣の橋本市を介しての道路ネットとなっており、直結道路の整備が人と物の交流を図り、もって町の活性化を促進する上での悲願となっている。

本年5月に国道480号鍋谷峠道路が国交省の直轄権限代行で事業採択され、この道路の早期完成を本町はもとより関係市町は大きく期待をしているところである。

本町の人口の動向をみると、顕著な少子高齢化をあらわしている。

周辺地域に企業が少ないことから、若者の多くは、本町から転出し若者の定住があきらかに減少している。このことから、人口の減少と高齢化につながっている。

又、本町の基幹産業は農業が主体であるが、農業の担い手の減少から高齢化し耕作放棄地が年々増加の傾向にある。

企業に関しては、企業誘致を働きかけているが中々進出していない状況にある。これは、平野部が少ない等から周辺市町と比較すると土地の価格が高である、或は関連企業が少ない、物流に資する道路網が完備されていない等の理由が挙げられる。

今後、人口の減少をどう止めるのかが、本町の重要な課題である。

災害等に係る道路整備に関しては、妙寺地区と笠田地区の一部が唯一市街地として形成しているが、地震等の大規模災害が発生した場合、住宅の大半が木造住宅であることから特に火災時における避難路の確保が重要な要素となっている。

今後の道路施策は、防火帯や避難路としての道路整備が重要な事項となっているが、財政状況の悪化から手付かずの状態である。

○課題

本町の活性化を図る上で重要な要素は、

①人口の減少をくいとめる、若者の定住化を促進すること。それには、子育てのし易い環境の整備としての歩道等が完備された道路。

②若者の定住化を進める上で重要なものに、企業誘致がある。又、基幹産業である農業の活性化により、就職先として農業を選択できる施策。その為の、京奈和自動車道・府県間道路国道480号等の早期完成。又、観光農園を促進する道路整備。

③若者と高齢者、都市と農村の交流を支える社会基盤の整備。

④公共交通機関へのアクセス道路の整備。このことは、府県間道路である国道480号が完成すると、大阪への通勤時間の短縮から、本町から通勤することの可能な状況が生まれる。

⑤本町は自然とみどりがいっぱい溢れいている。恵まれたこの自然をそのように活性化に活かすかが、一つの鍵と考えている。

⑥住民の意識調査で上位は、
道路整備・改善、バスの交通の利便
企業誘致・雇用の場の拡大
が約20%となっている。

今後は住民の願いを活かした施策の一環として道路網を其々の分野に積極的に進める必要がある。

「とびっきりの自然と笑顔があふれる町 かつらぎ町」の将来像を実現するために、道路施策に関しては

- ①京奈和自動車道や国道480号などの東西幹線道路網の整備に伴い、和歌山県紀北地方の市町との連携により分野別企業誘致により、若者等の就業機会の促進を図る。
- ②農業振興に関しては、作物のブランドによる差別化を図ると共に、都市と農村との交流を図る一環としての観光農園や体験型農園の創設。
- ③若者や老人が安心安全に暮らせるまちづくりのための一環として、バリアフリー化推進する。又道路に付随したポケットパークを設置するなど、ゆとりと潤いのある快適な居住空間を創設する。
- ④地域の特性に応じた景観や商工業などの産業機能の集積を推進する。
- ⑤地震等災害に強いまちづくりを推進する。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項

様式 ④

和歌山県かつらぎ町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
特に記述すべき事例はありません			